# 令和３年度第２回狭山市社会教育委員会議 会議録

| | |
|---|---|
| 開催日時 | 令和４年３月１１日（金）<br>１４時００分から１６時００分まで |
| 開催場所 | 教育センター　大研修室 |
| 出席者 | 向野教育長<br>西村委員　野村委員　鈴木委員　今福委員<br>江頭委員　角田委員　齋藤委員　黒川委員<br>小熊委員　中間委員　吉田（徹）委員　八瀬邉委員<br>菅野委員　吉田(久)委員　平岡委員 |
| 欠席者 | 福岡委員　高橋委員　恵比須委員　高久委員<br>横山委員 |
| 事務局 | 内藤生涯学習部次長　奥冨社会教育課長　新井中央公民館長<br>加藤中央図書館長<br>松川　山口 |
| 傍聴者 | ０名 |

１　開　　会

２　あいさつ　　議長、教育長

３　議　　事

（１）令和３年度の社会教育に関する主な取り組み状況について

○資料１「第３次教育振興基本計画に基づく令和３年度の社会教育に関する主な取り組み状況」について事務局から説明

委　員　　公民館で開催したオンライン講座の申し込み状況と参加者の年齢層はどのようになっているか。

事務局　　中央公民館の事例となるが今年度は地域包括支援センターとの共催でけん玉講座（全３回）と認知症予防講座（全２回）を動画配信形式で実施した。

それぞれの２月２８日現在の動画再生回数は、けん玉講座が３２５回、認知症予防講座が５３回であった。

また、水富公民館では狭山の食材を利用した料理を紹介する「おうちでご飯さやまの料理レシピ」という動画を配信しており、動画再生回数は８００回を超え、Facebookの閲覧件数は約１，０００回、市のホームページは約２５０回となっている。

オンライン事業の実施の課題として、動画撮影用の機材が用意されていな

いことや各職員のスキルにも差があることから、研修などを通じてスキルアップをする必要があること、対面式と違い情報の発信がメインになりがちであり、双方向での情報のやりとりを行えるようにしていかなければならないと考えている

（２）成人式の名称変更について

○資料２「成人年齢引き下げによる令和４年度以降の式典（現成人式）の基本決定方針決定経緯」及び令和４年度以降の式典（現成人式）名称アンケート結果について事務局から説明

委　員　　アンケートの名称候補を「二十歳の集い」、「二十歳を祝う会」、「二十歳を祝う集い」の３つとした理由は

事務局　　インターネット上で、全国の名称の設定状況について確認した中で、この３つを選択している自治体が多かったことから今回のアンケートの選択肢としたものである。また、他市の設定状況を見ると音は同じだが、表記方法については漢数字の部分をアラビア数字としたものや、漢字をひらがなでとしたもの、「狭山市二十歳の集い」のように自治体名を付けたものなど多岐に分かれている。

委　員　　「祝う」という言葉を使うことには抵抗を感じる。
今まで祝ってきたのは２０歳として成人を迎えたことに対してであり、成人年齢が１８歳に引き下げられた時に、２０歳になったことに対し、何について祝うのかという明確な理由がない状態で「二十歳を祝う会」、「二十歳を祝う集い」という名称とするのは疑問が残る。

委　員　　成人年齢が変わるということに関して、当事者である若者がどこまで理解しているかが疑問である。最近、私の家にも消費生活センターから成人年齢引き下げに伴う注意喚起の文書が届いたが、それについても子どもは関心が無い様子であった。
成人式の名称についても特に関心がないように感じており、実際にアンケートの回答者数も少ないので、もう少し若者がどのように考えているのかが知りたい。

委　員　　アンケートの周知方法について、現代の若者は動画配信やＳＮＳを通じて情報を入手している。そういったものを活用して周知をしていった方が良かったのではないか

委　員　　他に当事者である若者へのリサーチは実施しているのか。

事務局　　今回実施したアンケートは１８歳から２０歳を対象に絞り実施したものであるが、それ以上のリサーチは行っていない。

委　員　　今までの式典は成人を祝うというものであったが、今後の式典については内容変更を考えているのか。

事務局　　現時点で内容についての検討はしていないが、人生の一つの通過点として２０歳になった時点で、改めて成人の自覚を持ってもらうとともに市全体でお祝いをするものになると考えている。

委　員　「２０歳のパーティー」という名称であれば親も出席させやすいのではないか。

委　員　　成人式の出席率はどのようになっているのか。

事務局　　今年度は約６９％であったが例年は約７５％で推移している。

教育長　　個人的な感覚であるが、２０歳で式典を行うことについては、すでに社会教育委員会議でのご意見をいただいたところであるが、若者の多くは、中学校卒業後に同級生と顔を合わせることがなかなかないことから、友人に久しぶりに会えるという期待をもって参加している方が多いと思う。
　また、保護者も子供の晴れ姿を見たいという思いをもっている方が多いと思う。そういった中で、若者としては名称よりも場を提供してもらえることが重要なのではないかと感じる。

委　員　　保護者としてみれば記念的な意味合いが強いのだろうと思う。また、当事者としては同窓会的な意味合いも必要である。コロナ禍であるがゆえに変えるべきところもあるのではないかとは考える。

委　員　　無理に変更せず「成人式」でも良いように考えるが、多くの人が納得できる名称であればそれが１番良いのではないか。

委　員　　１８歳から成人が始まると考えているが、１８歳からの２年間は飲酒や喫煙など色々な制約が残っており、準備期間だと考えている。
　成人式はお祝いだと思う。人生の節目というものはとても大事なものであり、色々な制約がなくなった２０歳の式典の時に、人生の節目として、各首長から成人の自覚を促してもらうような話をするのが良いことだと思うので、式典の対象が２０歳となったのは良いことだと思うし、そういう意味ではおめでとうと言ってよいのではないかと思う。

（３）その他
　○各委員の地域での活動の取り組み状況について情報交換
委　員　　社会福祉協議会の活動として、地域の中で人と人とのつながりをつくること

を目的に、「まちの縁側プロジェクト」を結成し、気軽に立ち寄れ、コミュニケーションをとっていく場として縁側の設置活動を進めている。現在メンバーは４５人で、２５カ所にベンチを設置してきた。新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、人と人とのつながりが希薄になり、人が集まるのも難しく、活動も非常に苦しいものとなったが、できる活動を模索した結果、周りに声を掛け合ってウォーキングを実施している。また、社会福祉協議会主催の「高校生 Yume プロジェクト」がきっかけで、市内の高校生１１人が活動に賛同し活動に加わってくれている。高校生は「椅子づくりプロジェクト」や、高齢者が地域の中で気軽にベンチに座ってコミュニケーションをとれる場を作れるような福祉からの観点、そして地域住人の誰もがコミュニケーションを取れるようなまちづくりの観点から活動している。高校生には設置したベンチを見学してもらった際に、意見等をだしてもらった。また、まちづくりについて意見交換をした時にも様々な意見をだしてもらったことから、やはりまちづくりには若い世代の意見も取り入れていかなければならないと改めて感じている。

議　長　　素晴らしい取り組みだと思う。そのような輪が今後も広がっていくことを期待している。本日配付された「社教情報」の中にも、「高校生がまちづくりをどのように考えていくのか」という記述があったが、各地でこのような動きが出てきている。高校でも「探求」の授業に力を入れていかないとこれからの世の中では生きていけないと思う。認知能力（学力やＩＱなど数字で表せる能力）と非認知能力（判断力やコミュニケーション能力）があると思うが、これからは非認知能力をもっと極めていく必要があると考えている。そうした意味で、報告された高校生の取組みは大事なことだと思うので是非続けていってもらいたいし、広がっていってもらいたい。

委　員　　自分が社会教育委員になった時はＰＴＡ会長になる１年前で、併せて「地域学校協働本部」がスタートした時と記憶している。当時の校長先生とは地域と学校のお互いの立場から意見を交わしていたが、ＰＴＡで何をしていけばよいのかというイメージが社会教育委員会議を通して浮かんできた。自分がＰＴＡ会長をして活動してきた４年間で、文部科学大臣から優良ＰＴＡの表彰を受けるなど一つの形を残せたのは社会教育委員会議のおかげだと考えている。社会教育委員会議では、様々な年齢や立場の方との話を聞け、活動のヒントになることが多かった。この２年間で様々な活動が止まったが、雑談の中からヒントが出ることも多いと思うので、対面で会議を開催してもらいたい。

委　員　　学校支援ボランティアセンターは新型コロナウイルス感染症が拡大する前は約９，０００時間だった活動時間が、現在は２，０００時間弱と減少したが、対面ではないアプローチ方法を見つけることができたことは良かったと考えている。新型コロナウイルス感染症の影響により、社会教育というものはより重要になったと考えている。子供は学校教育を通じインプットとアウトプットが

行え、間違えたアウトプットに対しては教員が修正をかけてくれるが、社会に出てしまうとアウトプットの修正をかける場がない。そういったことが、新型コロナウイルス感染者やスポーツ選手への誹謗中傷につながっていると思う。インプットも大事だがアウトプットも大事だと思うので社会教育の場でそういうことも学べるようにしていってもらいたい。

議　長　　自分も社会教育の出番はこれから必要になってくると考えている。ＳＮＳの発達により、自分と同意見は集まりやすくなっているが、別意見については、中々入ってこないし自分から情報を得ることもしない。そういった時に別の意見を言ってくれる人や組織が必要だと考える。

委　員　　読書の役割は非常に大きいと考えている。書籍を通じて考え方を変えることや、新たな考えを作っていくということがあると思うので、これからの図書館の役割はもっと大きくなると思う。

委　員　　年齢を重ねるにつれて、生きていくには健康づくりが大事だと考えている。もちろん仲間づくりも大事であり、仲間づくりを得たら学びも大事だと思う。自分が主に通っている市民大学でも令和３年度に実施した事業は全てオンライン講座であり、令和４年度も全てオンラインで実施する予定である。時代に合った学びやコロナ禍でも学べる方法を考えていかなければならないが、受講する側もされる側も中々難しい面がある。いずれにせよ時代に合った生き方をしなければいけないと考えている。

委　員　　自分が関わっている放課後子供教室も昨年度はほとんどの活動ができない状況だったが、今年度は、回数を減らしながらも実施することできた。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、行事の縮小や日々の生活での厳しい規制など、子供にも様々な影響がでており、自由に遊ぶことが難しいなかで、数回でも活動を行え、子供達が楽しそうにしているのを見られてうれしかった。コロナ禍のためボランティアスタッフが集まりにくかったが、今年度は、学年ごとに分けて実施するなど参加者を絞った結果、スタッフが少なくても実施できることも分かった。コロナ禍だからできないではなく、どうやったらできるかを考えていくのが重要だと感じた。

また、子供が小中学生の時は保護者の立場から家庭教育学級や研修会の参加など学ぶ機会もあるが、子供が大きくなるとそのような機会も失われるので、学ぶ機会のある時に少しでも携わってもらえるような環境があればと考える。

委　員　　自分は小中学校両方の校長を経験しており、小学校の時は地域の方をいかに学校に取り込むかを考えて行動をしていた。今は中学生をいかに地域の中に出していくか、どの様に中学生を参加させていけばよいのかという視点で考えている。

学校の職員だけで子供を育てるのは難しく、いかに地域の方と一緒に子供を育てていくかが大事であり、社会教育委員会議で様々な方の意見を聞くことができたのは非常に参考になった。

委　員　　コロナ禍で社会教育委員としての活動も思うようにいかなかったのは残念であったが、このような場で色々な方の意見を聞くことができたことに感謝している。

自分が社会教育主事講習を受講した際に課題として設定したテーマが「生涯学習を利用したまちづくり」であった。今回策定された第３次教育振興基本計画の中にも生涯学習を利用したまちづくりの記述があったが、市民にとっても学んだことがまちづくりに活かされれば、やりがいや実感が湧いてくると思うので、そこを上手くつなぐ仕組みを狭山市につくっていってもらいたい。

議　長　　コーディーネートする役割は重要だと思う。

委　員　　コロナ禍の影響で、オンラインでの打合せが増えたが、会えばすぐに決まるようなことでもなかなか決められず、改めて実際に会ってつながっていくことの大切さを痛感する年であった。

他の委員からもコロナ禍でどうやったら事業ができるのかを考えていくのが大事だとの意見があったが自分も同意見である。

委　員　　小さな子育て広場をやっており、本年度は小学校のＰＴＡ会長もしている。現在も給食は黙食であり、学校では廊下や手すりなどは教員が消毒等を行っている。その光景を見たり、この２年ほどマスクを外した子供や保護者の顔を見ていないことを思うと切なくなり、１日でも早く以前のような光景が見られるようにと考えている。本日は東日本大震災が起きた日であるが、自分も当事者であったし、ウクライナ情勢についても自分の周りで苦しんでいる方がいるので、他人事ではなく自分のこととしてとらえて、次に何ができるのかということを考えていきたい

委　員　　平成２７年度より、経済的な事情やその他様々な事情を抱える子育て家庭への食糧支援のプロジェクトに参加しているが、コロナ禍になり支援が必要な家庭が当初から３倍弱増えている。困窮の背景にシングルマザーの雇用の不安定さや親の育児能力や生活スキルの低さ等が見えてきており社会的問題が良く表れていると考えている。食糧支援をしていく中で、根本的な問題を見出していかに解決につなげていけるかが重要だと考えているが、その中で地域がどのように関わっていくかというのは難しい問題だと感じている。学校や行政などと相談しながらつなげていくのが必要だとは思うが実現には解決しなければいけない問題も多いと考えている。大人の学びとして社会教育は非常に大切だと感じているが、本来であれば学んでもらいたい方ほど、様々な事情によりそれが

困難になっており、自分もどのように携われるのか勉強をしているところである。

委　員　　コロナ禍によりなかなか活動ができない状況であったように思う。自分は市のスポーツ推進委員もやっており、今年度は市の公共施設等で地域のサークルなどにパラリンピックの競技でもあったボッチャを指導したが、様々な年代の方が同じレベルでできる競技でありとても盛り上がり、良い講習会であったと思う。これも生涯学習の支援になっているのではないかと思う。

委　員　　自分は狭山生涯学習をすすめる市民の会で活動しているが、本年度は生涯学習サービスコーナーが休止であり、市の生涯学習に関し手伝うことが難しい状態であったが、現在は公民館活動も少しずつ再開してきており、会としても本年２月に「楽しく学ぶ世界遺産講座」を２０名ほどが参加者で開催することができた。参加者は高齢者の比率が大きく人生１００年時代の学びを感じている。アンケート結果ではオンライン参加は難しいという意見が多かったが、若い世代に協力してもらうことにより、あらゆる世代に参加してもらえるような活動をしていきたいと考えている。

副議長　　社会教育は制度ではなく生活そのものから話が入るので、話をしていく中での関心事というのが自分の生活をどう良くしていくかということになる。生活をどう良くしていくのかということを広げると地域をどう良くしていくのかという話につながるし、もっと自分寄りで考えれば自分の人生をどう充実させていくのかというところの話となり、自分の身近なところで話ができるというのが好ましい点である。この会議でも皆さんが生活地域に密着して色々な活動をされていて、その中で意見が集約されていくというのが自分自身の励みにもなっていた。自分は大学で教鞭をとっているが、コロナ禍になってから、コロナに合わせて生徒や保護者への連絡の取り方や学内の部署間での連携の取り方などを見直して変えていくこととなった。今考えればコロナに対応して変えざるを得なかったが、コロナと関係なく、こうすべきだったのではというところが多く見られた。どうしようもなくなって見直してみたら、もっとこうしたら良かったというのを２年間かけて至ったような気がする。コロナが収束後もここで変わってよかったというところがたくさんあると思う。しかし、見直しをして新しく取り組んだことや、ここで見えてきた現状と課題というものは、実は、コロナのために対応したものではなく、今までなんとなく残っていた問題や課題であって、コロナ終息後も持続的に改善をしていく第１歩にしていくと良いのではないかと思う。少し前の教育の問題を整理する時の考え方は、例えばゆとり教育などカリキュラムの何かを削減した分、何かを入れるというような部分がすごく多かったのだが、ここまで社会や生活が大きく変わると、何かを積み上げていく、何かを追加していくというような考え方では対応できなくなっているというのが正直なところである。そう考えると今足りないところをただ

足していくのではなく、何かが足りない、何かが困っている、課題があると思ったら、その全体の仕組みを大胆に変えていくことが求められるくらいに私たちの生活は変わっている。それはコロナの影響もあるであろうし、技術革新により起きているものかもしれない。社会教育は生活に根差しているものなので、目の前の問題に対応して地道に動く一歩一歩が非常に大事なものであると思いながらも、今後の社会教育というのは、私たちがこの２年頑張って変えてきたように、そもそもの根本を見直してより良いものに変えていくことができれば、１０年後に振り返ったときに、「すごく大変だったけど頑張ってよかったね」という２年になると良いなと思いながら皆さんの話を聞かせていただいた。狭山でよかったなと市民が思えるよう、社会教育だけでなく学校教育も含めた教育全体として私たちも色々なことを考えていきたいと思っている。

○入間地区生涯学習フォーラムについて議長より情報提供

４　閉　　会

野村副議長からあいさつ